

平成30年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 基礎学力の定着、専門教育の充実、共通教科と専門教科のバランスに配慮した教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>② 学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的行動の促進を図る。</p>	<p>① 生徒の学習意欲の向上を目指して、教授方法を研究し、組織的な授業の改善を行う。</p> <p>② 学校行事や生徒会行事の充実を図る。</p>	<p>① 他校の取組を参考としたり全日制と定時制相互の公開授業を行うなど、授業改善のための研修を実施する。また、生徒の学習意欲の向上を目指し、学習サポート員等の利用を図る。</p> <p>② 学校行事や生徒会行事の事前指導を充実させるなど、各行事のねらいを明確にすることにより生徒が主体的に参画できるよう指導する。</p>	<p>① 生徒による授業評価において「授業中生徒同士で話し合う機会などがある」の項目において、「かなり当てはまる」と「ほぼ当てはまる」合わせて、75%以上となったか。</p> <p>② 学校行事や生徒会行事に生徒が主体的に参画していたか。</p>	<p>① 7月に実施した1回目の授業評価では、73.0%であった。12月に実施した2回目では79.6%となり、ほぼ目標が達成された。</p> <p>② マラソン大会、体育祭、文化祭、球技大会では多くの生徒が主体的に参加することができた。</p>	<p>① 来年度も、引き続き組織的な授業改善の研究を進め、それを実践することにより、授業評価において目標値を超えるよう努める。</p> <p>② 来年度は、講話や講習等の学校行事でも生徒が主体的に参画するよう工夫する。</p>	<p>① 引き続き授業改善に努力してほしい。</p> <p>② 行事等で生徒たちの一生懸命な姿が見られた。</p>	<p>① 学習への理解度にはばらつきのある生徒が多い中、学習サポート員等を配置するなど複数の教員で対応し、きめ細かな指導ができた。</p> <p>② 講話・講習等の行事での参加に問題を残した。</p>	<p>① 引き続き複数の教員での対応等、個々の生徒の理解度に対応した学習指導に努めると共に、主体的な取り組みに対する授業改善を進める。</p> <p>② 事前に意識付けを行い、講話・講習に対するモチベーションが向上するように工夫をする。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>① 基本的な生活習慣の確立に向けたきめ細かな生活指導に取り組むとともに、個に応じた支援のための組織的な教育相談体制を確立する。</p> <p>② 部活動の活性化を通して、生徒の達成感・連帯感・責任感を涵養する。</p>	<p>① 生徒の情報を職員全体で共有し、積極的に情報を交換することで、個に応じたきめ細かい生活指導・支援を行う。また、生徒に対する交通安全指導の充実を図る。</p> <p>① 「学校のいじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止に取り組む。</p> <p>② 「神奈川県立学校に係る部活動の方針」により、部活動の方針を策定し、教育課程と連携した部活動の活性化を図る。</p>	<p>① 職員間で生徒情報の共有を図るとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーあるいは外部機関との組織的な連携を図ることにより、個に応じたきめ細かい生活指導・支援を行う。</p> <p>① 車両通学や日常における交通安全指導の充実に努める。</p> <p>① 定期的なアンケートを実施し組織的にいじめの認知に努め、その解消を図る。</p> <p>② 新たに策定する方針に従い年間指導計画を作成することで計画的な活動を行い、部活動の活性化に努める。</p>	<p>① スクールカウンセラー等を含めた全ての職員で生徒情報を共有する機会をこれまで以上に持つことができたか。</p> <p>① 車両通学に対する指導の充実を図ることができたか。また、日常における交通安全指導の機会の提供ができたか。</p> <p>① いじめの認知件数とそれらが解消できたか。</p> <p>② 年間を通して部活動に参加した生徒が増えたか。</p>	<p>① 全職員による情報共有会(4/11、10/30)やスクールカウンセラーを含めた個別のケース会議(6/21、10/11)の実施に加え、外部機関(児童相談所)との組織的な連携を図り個に応じたきめ細かい生活指導・支援を行うことができた。</p> <p>① 車両点検の実施や交通安全講話の実施(7/13)、ヤングライダースクールへの参加(定時制としてはじめての取組、雨天中止)、車両通学者に対する指導の強化に加え、毎日の登校指導を通して、日常的な交通安全指導を行うことができた。</p> <p>① 「学校生活に関するアンケート」を2回実施(7/6、12/10)し、いじめの状況の把握とその対応を図った。</p> <p>③ 新たに策定した「小田原城北工業高等学校定時制の部活動に係る活動方針」に従い、計画的な部活動を行った。</p>	<p>① 来年度も、生徒情報の共有化に努め、必要に応じて外部の機関等との連携を行うなど、個に応じたきめ細かい生活指導・支援を行う。</p> <p>① 来年度も、車両通学や日常における交通安全指導を推進する。</p> <p>① 来年度も、定期的なアンケートを実施し、組織的ないじめの認知に努め、その解消を図る。</p> <p>② 引き続き、主体的に部活動に参加する生徒が増え、部活動が活性化するように努める。</p>	<p>① アルバイト先のSNSの指導も行っていた。</p> <p>① 小中高での連携を密にして、いじめや自殺などの未然防止等、生徒指導に努めてもらいたい。</p> <p>② 部活動の加入率が他校との比較ができればわかりやすい。</p>	<p>① 生徒の情報を職員全体で共有、並びに、外部機関等との連携については、取組が進んでいるが、小中高との組織的な対応も必要である。</p> <p>① 車両通学について、交通安全指導を含めた指導をする必要がある。</p> <p>① 定期的なアンケートの実施によるいじめの認知については、一定の効果が認められる。</p> <p>② 活発に活動している部に対する支援が必要である。</p>	<p>① 引き続き職員間で生徒情報の共有、スクールソーシャルワーカーや外部機関との連携については、組織的な対応を行うと共に、学校警察連絡協議会等の情報を校内で共有する。</p> <p>① 車両通学の生徒に対する指導を検討するとともに、交通安全指導を充実させる。</p> <p>① 小中学校との連携を含め、いじめの未然防止のため、引き続き組織的な対応を行うとともに、職員間での情報の共有化に努める。</p> <p>② 活発に活動している部の発表の機会を充実させる。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>① 生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導・支援の充実を図る。</p> <p>② これからの時代を生きて行く上で必要な資質・能力を育成するためのキャリア教育を推進する。</p>	<p>① 個々の生徒が卒業後の進路に対し、具体的なイメージが持てるよう指導する。</p> <p>② キャリア教育を推進するためのプログラムの充実を図る。</p>	<p>① LHR や面接等を通して、できるだけ早い段階から生徒が卒業後の進路について、具体的に考えることができるよう指導する。</p> <p>② キャリア教育のねらいを明確にし、講演会等を実施することで、生徒が主体性を持って将来を考えることができるよう努める。</p>	<p>① 個々の生徒の卒業後の進路希望を把握し、進路実現に向けた指導をすることができたか。</p> <p>② キャリア教育のねらいに沿った企画を実施することができたか。</p>	<p>① 年間を通して定期テスト終了後に面談期間を設定し、全校生徒を対象とした個人面談を実施(進路希望調査、進路指導含む)した。</p> <p>② 授業等でのキャリア教育に加え、年金セミナーを実施することで、勤労の重要性や将来を考慮することができた。</p>	<p>① 来年度も、LHR や面接等を通して、できるだけ早い段階から生徒が卒業後の進路について、具体的に考えることができるよう指導する。</p> <p>② 来年度も、キャリア教育のねらいを明確にし、講演会等を実施することで、生徒が主体性を持って将来を考慮できるよう努める。</p>	<p>① 少人数であることを生かし、面談を重ねるなど、早い段階からの進路指導を推進してほしい。</p> <p>② 社会人としての必要な心構えや知識を身につけさせるため、キャリア教育の充実に努めてほしい。</p>	<p>① 多くの生徒が最終的に進路を決定しているが、卒業直前に進路が決まる生徒もいたので、できるだけ早い段階での意識付けが必要である。</p> <p>② キャリア講演会は、生徒の進路意識向上に役立っている。</p>	<p>① 進路指導については、担任だけでなく学年やグループ等による組織的な対応に努める。</p> <p>② 生徒に社会人としての意識付けを行うため、講演会等を充実させる。</p>
4	地域等との協働	<p>① 地域産業・地域社会との連携・協働による教育活動の充実に取り組む。</p> <p>② 地域や中学生に工業高校や定時制の魅力・特色を発信するため広報活動の充実を図る。</p>	<p>① 地域産業・地域社会、近隣の小中学校等との連携・協働に取り組む。</p> <p>② 定時制の特色や情報を広く発信するために魅力ある取組や活動を伝えるよう広報活動を充実する。</p>	<p>① 文化祭に地域の方を招くなど地域と連携・協働した行事を実施するとともに、生徒の自己肯定感を育むため、地域の小中学校で行われる行事等に参加する取組の充実を図る。</p> <p>② リニューアルしたホームページを通じて、行事や生徒活動の様子、資格等の取得状況などを定期的に発信していく。</p> <p>③ 様々な機会をとらえて、各種広報活動の充実を図る。</p>	<p>① 地域の方や近隣の小中学校等との連携・協働した取組ができたか。</p> <p>② ホームページをこまめに更新し、その内容を充実することができたか。また、定時制の広報活動の充実を図ることができたか。</p>	<p>① 小田原市立桜井小学校にて開催された「桜井キッズフェスタ」への参加に加え、体育祭、文化祭、防災教室等に地域住民を招き、連携を図った。また、避難所初動対応マニュアルを作成し、マニュアルと合鍵を自治会長に渡した。</p> <p>② 始業式や社会見学、体育祭等の行事毎のホームページ更新に加え、興味・関心を引く、携帯性に優れた広報グッズをオリジナルデザインと共に作成した。</p>	<p>① 来年度も、地域と連携・協働した行事を実施するとともに、生徒が地域の行事等に参加する取組の充実を図る。</p> <p>② 来年度も、ホームページを通じて、定期的に情報を発信すると共に、様々な機会をとらえて、各種広報活動の充実を図る。</p>	<p>① 桜井キッズ・フェスタなど生徒が地域で積極的に活動している姿が見られた。</p> <p>② 城北のPR動画等や、専門分野の具体的な活動を載せるなど積極的なPRが必要ではないか。</p>	<p>① 桜井キッズ・フェスタに生徒が参加することにより、自己肯定感の向上と、他人に対する思いやりの心の醸成に成果があった。</p> <p>② 定時制の生徒の活動を地域住民にも知ってもらうためには、広報活動の充実が重要である。特に定時制ホームページの更なる充実が必要である。</p>	<p>① 生徒の自己肯定感を育み、自分の可能性に気付けるような地位での取り組みを充実させ、地域住民に定時制生徒の活動を知ってもらえるようにする。</p> <p>② 定時制の活動をわかりやすく紹介できるように、画像、映像などを工夫し、学校ホームページを定期的に更新するなど広報活動を充実させる。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>① 生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備、防災体制の整備に取り組む。</p> <p>② 研修による意識啓発、業務の共有・協働・効率化を進め不祥事を未然に防止する。</p>	<p>① 防災訓練や防災講演会等を実施し、防災体制の整備を進めるとともに防災意識の向上に努める。</p> <p>② 職員間の意識共有、啓発に努めることにより、不祥事の未然防止を図る。</p>	<p>① 夜間防災訓練や講演会等を実施し、夜間に生徒を安全に避難させる体制を整えるとともに、新たに「避難所初動体制マニュアル」を作成し、保護者、自治体との協力体制を整備する。</p> <p>② 職員の課題意識の共有化を図るため、個々の職員の企画を生かした研修等を実施する。また、日頃から同僚性の醸成に努めることにより、効果的な事故不祥事防止研修を実施し、職員の意識を高める。</p>	<p>① 生徒の防災意識の向上を図ることができたか。また、地域・保護者との協力体制を整備することができたか。</p> <p>② 同僚性の醸成に努め、効果的な事故不祥事防止研修を毎月実施することができたか。</p>	<p>① 6月の夜間防災訓練、11月の防災教室を通し、生徒の防災意識の向上に役立った。また、「避難所初動対応マニュアル」を作成した。</p> <p>② 時期をとらえた内容の事故不祥事防止研修を毎月実施し、職員の事故不祥事防止に対する意識の啓発を図った。</p>	<p>① 夜間の防災体制について、保護者・地域住民の意見も参考にし、より充実した防災体制の確立を図る。</p> <p>② 同僚性を高めるために職員間の課題を共有する機会を設けるとともに、効果的な事故不祥事防止研修を行い、意識の啓発を図る。</p>	<p>① 防災訓練に参加し、夜間訓練の必要性を感じた。</p> <p>① マニュアルができて不安が小さくなった。</p>	<p>① 「避難所初動対応マニュアル」を作成し地域との防災体制の共有化が進んだ。引き続き、地域と協同して行う防災体制について充実させる。</p> <p>② 個々の職員が持っている課題意識を共有化できるような効果的な意識の啓発を考える必要がある。</p>	<p>① 「避難所初動対応マニュアル」をもとに防災体制について、地域住民からの意見を聞くことにより、より充実した防災体制を構築する。</p> <p>② 様々な機会をとらえ、職員の企画を生かした研修を実施するとともに、普段から同僚性を高めるため職員の情報の共有化に努める。</p>